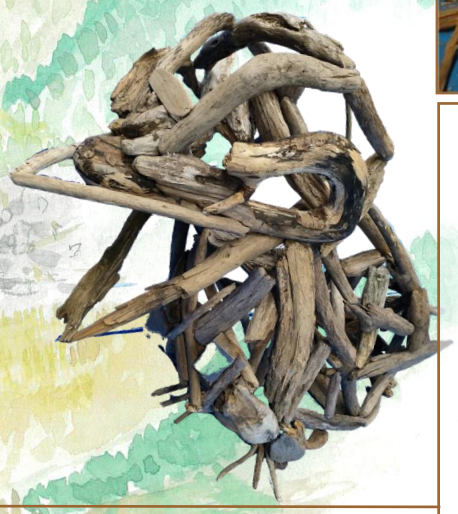
違う場所で拾った流木で同じテーマのアート作品を作るとどのような違いが出るのか

エンジニア科２年　山下輝

製作中の写真

形状のきっかけとなった流木

形状のきっかけとなった流木



形状のきっかけとなった流木

上万場駅

アカデミー

新美濃橋

金華橋

岐阜城

上流

幅の広い流木をから、羽をたたんで止まっている姿を連想したためこの構造となった。材を密着させ、大きく、力強さを感じる作品となった。

中流

一つの特徴的な形の流木から雛鳥を連想。そしてそのモチーフから口を開けた構造となった

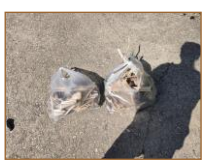
流木が豊富で強度もあるため、自由度の高い作品となった。

下流

全体的に細長く、曲がった枝が多かったので翼を広げ飛んでいる姿を連想した。**非常に軽量で繊細**な作品となった。

制作のルール

1. 流木は**20L**の袋に入る大きさのものを2袋がいっぱいになるか、拾えるものがなくなるまで拾う。
2. 流木は**無加工**で使用し、接着はグルーガンで行う。
3. 拾ってきた流木は**全て使用**する。



研究背景

流木のアート作品を見たことをきっかけに、複数の流域で流木アートをつくり、アートを通してその流域の特徴を比較することは、**新しい視点**や**アート製作の展開**につながると気づいたから。

ツバメの理由

長良川のいろんな**場所を巡る**というテーマとツバメが**渡り鳥**という点で共通点があるのと、**形が特徴的**であり、うだつの町並みにも多く見られる身近で**認知度が高い鳥**だから。

作品の比較

場所	郡上上万場駅付近の河原	新美濃橋付近の河原	金華橋付近の河原
流木の状況	石の間に挟まっているものがほとんど	一か所に集まって散乱	川辺に稀、増水時に数個程
収集時間	約30分	約30分	約１時間
数量	94本	101本	38本
重量	4.2kg	2.7kg	0.7kg
一本当たり	44.6g	26.7g	18.4g
流木の特徴	太く、長く、重いものが多い。欠片形のものもある。	全体的に軽く、強度があり、幅広い大きさ、形がある	細長いものが多く繊細非常に軽い
モチーフ	羽をたたみ止まっている姿	口を開けた雛鳥の姿	翼を広げ飛んでいる姿
製作時間	５時間３０分	６時間	２時間
HWD(cm)	68 37 74	63 27 72	14 120 70
連想した理由	材質と一部の流木の形から	一つの流木の形から	全体の流木の形と特徴から

研究のまとめ

それぞれの姿にした理由が、**流木の数**が多ければ多いほど、**少ない数**の流木で連想することができたからであった。
これは、流木の数が多いほど**特徴的で面白い形**のものが現れるからだと考える。例えば、下流のほうだと、棒状のものしかないので一個の流木に焦点を当ててインスピレーションを受けることが難しくなる。
このことから、**流木は同じ形がなく、場所によって性質も変わるため、同じテーマでも流木から感じたインスピレーションによって全く違った雰囲気の作品ができる**ことがわかった。

また、今回は長良川の３ヶ所だけで研究を行ったが、**５０ヶ所**行っても、**長良川以外の川や海、湖、ダム**ごとでも作品をつくり、違いを比較することができる。そうすると、多様性が生まれ、作品に様々な違いが生まれるのでとても面白い結果になるだろう。しかも、この作品制作システムは日本のみならず**世界中へ展開**していくこともできる。
この研究で、**世界中の流域を流木アートで特徴を比べる新しい現代アートの制作システム**をつくることができた。